

愛知県美術館「生誕 100 年 ジャクソン・ポロック展」(2012 年 1 月 22 日まで)の関連小展示「ジャクソン・ポロックとポップカルチャー」展、おかげさまで大好評です！「もっと大規模に展示してほしい！」、「もっと目立つように、美術館のロビーに場所を移しては？」といったご要望多数につき、ポロック展関連小展示第 2 弾を緊急追加企画しました！

「生誕 100 年 ジャクソン・ポロック展」関連小展示

ヒストリー・オブ・ザ・ストーン・ローゼズ History of The Stone Roses

2011 年 12 月 6 日(火)—2012 年 1 月 22 日(日)

場所＝愛知県美術館ロビー[愛知芸術文化センター10 階]

企画＝愛知県美術館

協力＝林 玄徹(愛知県文化振興事業団)

ザ・ストーン・ローゼズは、イギリスのマンチェスターで結成されたロックバンドです。1985 年にシングル「ソー・ヤング」でレコード・デビューしました。主なメンバーにイアン・ブラウン(ヴォーカル)、ジョン・スクワイア(ギター)、マニ(ベース)、レニ(ドラム)がいます。1980 年代のおわりから 1990 年代はじめにかけてマンチェスターで隆盛した「マッドチェスター」(Madchester)と呼ばれる音楽ムーヴメントの代表的なバンドの 1 つとして、その名を歴史に大きく刻んでいます。1996 年に解散しましたが、2011 年 10 月 18 日、再結成を宣言。世界ツアーの開催やアルバムのレコーディングに向けて再び活動を始めています。



▲ ストーン・ローゼズのレコード・ジャケット

ストーン・ローゼズ、とりわけギターのスクワイアはジャクソン・ポロックの芸術から多大な影響を受けています。スクワイアがポロックを意識し出したのは、彼自身によれば、イギリスのパンクバンド「クラッシュ」の写真集でペニー・スミスがポロックについてコメントしているのを見てのことだといいます（同バンドのポール・シムノンが、彼のベースのピックガードにポロック風のドリッピングを施していたことはよく知られています）。その後スクワイアは、ストーン・ローゼズのレコード・ジャケットのデザインを手掛けていきますが、その多くにおいて、自らが描いたポロック風の絵画を使っています。「あなたがレコードのために生み出した、ジャクソン・ポロックへのオマージュは、どの程度重要だったんですか？」というあるインタビューでの問いに対して、スクワイアは次のように語っています。「僕にはすごく重要だった。別のジャケットで出したら、恥ずかしかっただろうから。自分達のレコードがどういう風に見えるべきか、僕には正確にわかってたんだ。僕が1stを手掛けて、そこからはただ、他も全部僕がやるべきだ、って感じに自然になってった。……(ジャクソン・ポロックを)コピーしたのは、彼のオリジナル作品をレコード・カバーに使う許可なんて絶対に下りないだろう、って思ったから。で、ただ彼をコピーした——かなり楽しかったね。それから、レニが自分のドラムキットにもやってくれ、って言ってきて。その後、ギターにもやった」(『スヌーザー』39号、2003年4月)。

この「生誕100年 ジャクソン・ポロック展」関連小展示第2弾、「ヒストリー・オブ・ザ・ストーン・ローゼズ」は、ポロックの生誕100年とストーン・ローゼズの再結成を祝して、このバンドのポロック芸術との関わりを、セレクトされた11枚のレコードを通して探ろうとするささやかな試みです。ポロック展にご来場の際、「ジャクソン・ポロックとポップカルチャー」展(愛知芸術文化センター地下2階)と併せて、ぜひお楽しみください。12月6日(火)からです！

(T.O.)